

1. 評価結果概要表

平成 20年 2月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	2072200500
法人名	社会福祉法人恵仁福祉協会
事業所名	真田グループホーム
所在地	長野県上田市真田町長4307番地 (電話) 0268-72-0501

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年2月6日	評価確定日	平成20年3月20日

【情報提供票より】(20年 1月 15日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 11月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	5 人	
職員数	6 人	常勤2人	非常勤4人	常勤換算2.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	8,000 円	その他の経費(月額)	約20,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	250 円	おやつ	80 円
	または1日当たり 780 円			

(4) 利用者の概要 (1月 15日 現在)

利用者人数	5 名	男性	1 名	女性	4 名
要介護1	1名	要介護2			
要介護3	1名	要介護4		2名	
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 84.8 歳	最低	78 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	真田クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

さまざまな高齢者総合福祉事業を展開されている社会福祉法人恵仁福祉協会を母体に持ち、早期より利用者が地域の中で暮らし続けることのできる施設(グループホーム)の必要性を認識され、地域密着型サービスとしての真田グループホームが開設されています。ホームは山間地の集落の中にあり、築100年の歴史を持つ古民家を住み心地よく改修されている。入居者5人の小規模型であり家庭的な環境と地域住民と交流をの図りながら運営されている。管理者は地域密着型サービスの確実な質の確保に向け職員の育成、グループホーム長野県連絡会と連携を図られている。また母体法人の機能を活かし、入浴車の利用や訪問看護ステーションの活用により重度化した入居者の終末期のケアに職員や関係者との協力体制を整え当たられている。さらに、事業所としては、認知症理解のための講演も行っている。入居者は家族的な雰囲気の中で自由にゆったりと日常生活を送られている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) ホームは古民家利用により入居者にとって限りなく家庭的な雰囲気の中での支援に心がけられており、家庭的雰囲気を損ねない形に配慮し、ホーム理念を色紙に書かれ居間に掛けられている。介護計画にあたり職員全員でアセスメントを行い入居者の意向を反映した計画が立てられご家族より承認を頂いている。バランスの良い栄養摂取については、法人の栄養士により相談支援をいただいている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は評価に積極的に取組まれ、自己評価の意義や目的を全職員に周知をはかり、自己評価にあたり全職員で取組まれている。自己評価による気付きをもとに、ケアの質の向上に努められている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では出席者にホームへの理解を頂く為に、ホームの日常生活や活動状況等の説明が行われている。なお出席された入居者のご家族や地域住民の各セクションの代表者より質問、意見、要望等が出され活発な意見交換が行われており、検討事項や懸案事項について課題解決に向け継続検討がおこなわれている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会や運営推進会議においてご家族の意見や要望が表出できる場面づくりに配慮がされている。またホームへの面会時等に職員より入居者の近況を伝えられると共に、ご家族より要望をお聞きしてケアサービスに反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域住民の一員として町会に加入し、町会行事(敬老会、地域の掃除、防災訓練等)に参加して交流を図られている。日常的に隣近所や地域の方々のお付き合いがあり、季節の野菜、果物、花等が届けられ冬の時期には盆栽を楽しませていただいている。また降雪の折にはホーム周辺の雪かき等の協力が得られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人を母体にもち地域密着型サービスの必要性を早期から認識され、地域生活の継続支援に取り組まれており、法人の基本的理念を基に住み慣れた地域の中でゆっくりと安心して暮らし続けることを謳ったホーム独自の理念をつくられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時にホーム理念が伝えられ理解が得られている。なお日常業務の中でも話し合わせ、理念の実現に向け日々職員全員で取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として町会に加入されており、町会行事（敬老会、地域の掃除、防災訓練等）に参加されると共に、地域の生き生きサロンに参加し交流を図られている。なお区民として自治会よりの配布物を頂くと共に、グループホームだよりを全戸配布し、地域を知ると共にホームへの理解を頂くために努められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価に積極的に取り組み、サービス評価の意義や目的について職員全員に周知をはかり、自己評価にあたり全職員で取り組まれている。なお自己評価による気づきや外部評価結果を基にケアの質の向上に努められている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはホームより入居者の日常生活や活動状況等の説明を行いホームへの理解をいただくと共に入居者家族、地域住民の各セクションの代表者等出席頂いた方々より質問、意見、要望等が出され活発な意見交換が行われている。検討事項や懸案事項について課題解決に向け継続検討がされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームのよりよいあり方を求める中にホームや入居者の課題解決のためには、市町村の理解や支援が必要な状況が多々あります。地域密着型サービスの創設を機に市町村との連携強化が求められます。	○	地域密着型サービス提供にあたり課題の中には、市町村の担当者と共に協議し解決を図る必要がある場面が少なくありません。運営推進会議等に出席頂きホームへの理解を頂くと共に、ホームからの情報提供により共有化を図り、積極的な連携に取り組まれることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族訪問時に入居者の現況報告や金銭出納帳を明示し報告が行われ確認印をいただいている。また遠方の方には入居者と共に電話連絡により様子を伝える配慮がされている。ホーム便りや家族会便りに職員の写真を載せ紹介がされる等によりご家族の安心に繋がっている。なお入居者の特変時には速やかに連絡を取り対処される等ご家族との連絡が密に取られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議においてご家族の意見、要望等の表出場面づくりに配慮がされており、ご家族との良い関係が構築されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には職員の固定化に努められていますが、異動や離職等によりやむを得ない場合には、新しい職員と入居者、ご家族との馴染みの関係作りのために1ヶ月間はシフトに組み入れない配慮がされていることを伺った。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定例(毎月)の法人の全体会議において研修報告を受けたり、毎月実施されている法人主催の研修会や2ヶ月に1回開催されるグループホーム勉強会により意識の向上に努められている。なおパート職員にも外部研修に参加できるよう配慮がされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成19年度に長野県連絡会の指導を得て近隣のグループホームネットワークが確立すると共に、グループホーム間の交流が始まっている。相互評価が行われる等連携した取り組みが行われ、サービス水準の向上に努められている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者、ご家族に体験訪問をして頂き、徐々に馴染みの関係が築かれ入居に至っている。なお1週間体験して入居を中止された方もいて、利用者、ご家族の十分な理解と納得を得るよう努めている根気ある姿勢が伺えた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者中心の暮らしの環境に配慮しつつ、入居者の長い人生の経験から得られた知識より学ぶ姿勢を大切にされている。入居者の出来る事に着目し職員の支援により達成した時に得る喜びは生きることへの大きな自信に繋がっている。また入居者に寄り添い声掛けや体調確認をしたり、表情より訴えを察知して共に支え合える関係づくりに留意されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者への日々の関わりの中(言葉、行動、表情)より、入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努められている。なおご家族との連携を蜜に取り情報の共有が図られている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員でアセスメントを行い入居者、ご家族の思いや意見を反映した個別の介護計画書が作成されている。	○	入居者一人ひとりにそったきめ細かいケアを必要とするグループホームでは、なんら状態変化が見られなくても最低3ヶ月に1回の見直しが望まれます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ホームには高齢に伴い重度の入居者がおりモニタリングにより状態変化が見られる時には、即ケアにつなげ見直しが行われている。しかし介護計画書の作成が後回しになってしまうことを伺った。(必要に応じてカンファレンスは随時行われている)		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人の機能を活かして入浴車を利用して重度入居者へ安全、安心した入浴支援が行われている。なお訪問看護ステーションとの契約により、重度化した入居者の終末期の対応への用意があり入居者、ご家族の意向に副うことのできる配慮と共に、ご家族が宿泊できる用意もされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の主治医へ受診や通院は、入居者、ご家族の希望にそった対応がされている。なお入居者の状態により訪問診療をして頂く等、医療機関との関係を密にされている。さらに、認知症専門医との連携も充分に図られ、入居者、ご家族からの安心感が得られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対する指針が定められており、ご家族、医師、訪問看護師等を交え話し合いが行われている。なお状態の変化がみられるごとに、ご家族の気持ちや、本人の思いの把握に努め支援が行われている。昨年実際に終末期を過ぎた経過を伺った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会や日々のミーティングにおいて入居者の尊厳の保持(誇り)と言葉掛けに留意して、プライバシーを損ねない対応に向け職員の意識向上が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるものの、入居者一人ひとりの体調や気分等に配慮しつつ入居者のペースに合わせ個別的な支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に相談がけをし買い物から食事づくりまで職員と行き、職員と同じテーブルで調理の味付けなどについて会話をしながら楽しい食事風景がみられた。また嚥下状態に低下が見られる方にはゆっくりとあせることなく、スプーティングによる支援が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の意向にそった入浴支援がおこなわれている。就寝まえに入浴される方や朝食前に入浴される方もおり、入浴剤を入れ入浴を楽しまれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は入居者の得意としていることや力量を把握されており、場面場面において役割の支援がされており入居者が生き生きと生活されている。(訪問時には茶菓子を持ってごく普通に接待をされる姿が見られた)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の状態や季節等を考慮して希望にそった(散歩・買い物等)外出支援が行われている。訪問時入居者が気軽に近隣の親戚に訪問されていることを伺った。外出が好きで、閉じこもりがちな冬期間でも外出され、入居者の思いの実現に十分な支援がなされていることが伝わってきた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしの大切さを認識されており訪問当日居室や玄関に施錠はされていなかった。どこからでも外出できる環境づくりに配慮すると共に、最大限の安全性を確保して自由な暮らしへの支援がされている。		

真田グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	現在はホーム職員による避難訓練が行われている。しかし運営推進会議において地域の方々よりの協力について助言を頂いていることを伺った。なお、既に地区自治会の住民支えあいマップの対象箇所となっていて、地域住民より認知されていることが理解できた。	○	ホームでは介護を必要とされている入居者（車椅子使用者等）もおり、安全に避難して頂く為に地域住民による協力体制を築かれることに期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に入居者の身体状況を把握し、栄養バランスに配慮した献立が立てられ、形状に配慮し提供されている。なお法人栄養士による相談支援を頂いている。嚥下状態の良くない入居者にはトロメリンやお茶ゼリーを提供し水分摂取に努められている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	訪問時ホーム玄関には季節の花々が生けられ、ご家族や地域の方々お気軽に訪問できる雰囲気づくりに配慮が見られる。廊下や居間にはさまざまな壁掛けが飾られ、炬燵や各所にソファが配置され入居者が自由に居場所の選択ができる工夫がされている。なお浴室、トイレ等においても身体機能に考慮された安心・安全仕様の形態となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居室にはカレンダー、写真・額が飾られており、テレビや馴染みの鏡台等が持ち込まれ居心地の良い居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。